

### 【今週の注目疾患】

#### 《後天性免疫不全症候群》

厚生労働省は、2006年以降、毎年6月1日から6月7日までの1週間を「HIV検査普及週間」と定め、都道府県等や公益財団法人エイズ予防財団、エイズ関連NGOなど関係団体と協力して、オンライン開催を含めた普及啓発イベントを実施している<sup>1,2)</sup>。

2024年第1週から第20週までに県内医療機関から後天性免疫不全症候群の届出が14例あった。14例のうち、性別では男性が13例（93%）と大部分を占めた。年代別では40代が5例（36%）で最も多く、次いで50代が4例（29%）、20代及び30代が各2例（各14%）と続いた。

県内における最近の後天性免疫不全症候群の発生動向では、2019年以降、年間の発生届出数は減少傾向にあったが、昨年2023年は増加に転じた（図1）。また、AIDSが後天性免疫不全症候群の届出全体に占める割合は、2020年以降に増加傾向がみられ、2022年及び2023年は約半数がAIDSであった（図2）。2024年は第20週時点で5例/14例（36%）がAIDSである。

図1：2015年～2024年第20週の県内の後天性免疫不全症候群の男女別届出数、389例

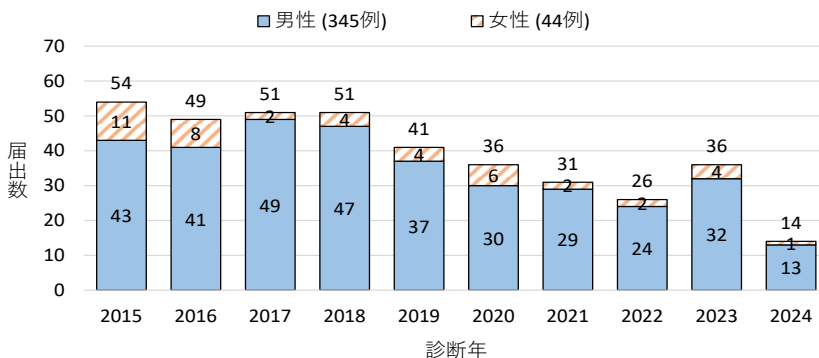
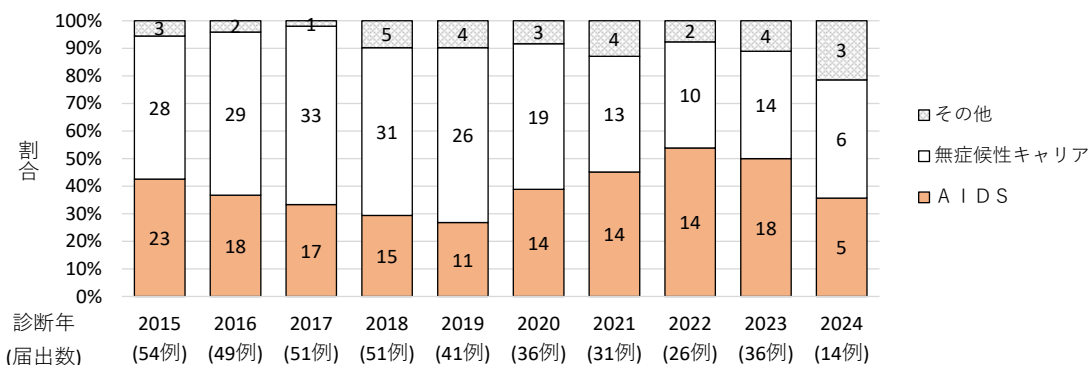


図2：2015年～2024年第20週の県内の後天性免疫不全症候群の病型別届出数・割合



後天性免疫不全症候群は、ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus ; HIV）に感染することで免疫不全が生じ、健常者では通常見られないさまざまな日和見感染症や悪性腫瘍が合併した状態をいう。HIV感染の自然経過は感染初期（急性期）、無症候期、AIDS発症期の3期に分けられ、時間が経過するとともに免疫システムの破壊が進行するため、早期診断、治療がとても重要となる<sup>3)</sup>。近年、さまざまな研究において、効果的な抗HIV治療を受けて血液中のウイルス量が検出限界値未満（Undetectable）のレベルに抑えられているHIV陽性者からは他の人に伝播しない（Untransmittable）こと（U=U）が分かってきており、早期治療の開始で新たな感

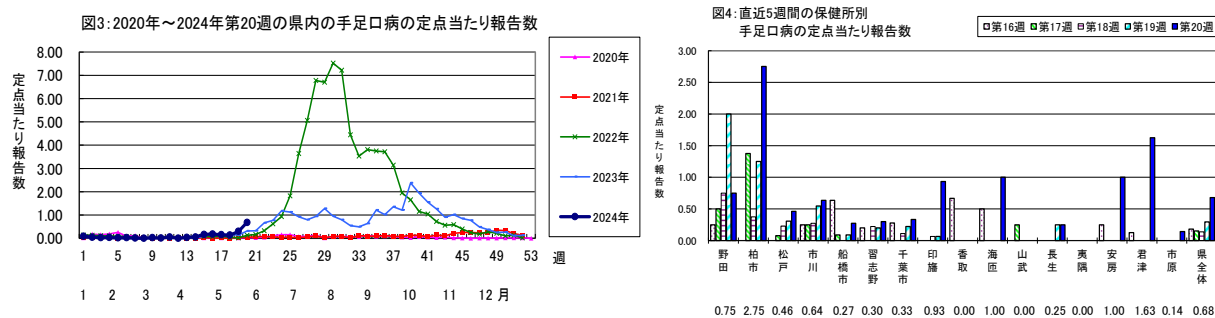
染を防止する（Treatment as Prevention; T as P）という考え方が主流になってきている。

■参考・引用

- 1)厚生労働省：HIV 検査普及週間に向けたイベントを実施します  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000206538\\_00022.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000206538_00022.html)
- 2)エイズ予防情報ネット（API-Net）：令和6年度「HIV 検査普及週間」特設ページ  
<https://api-net.jfap.or.jp/edification/week/tokusetsu2024.html>
- 3)AIDS（後天性免疫不全症候群）とは：国立感染症研究所  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html>

《手足口病》

2024 年第 20 週に県内の小児科定点医療機関から報告された手足口病の定点当たり報告数は 0.68（人）であり、第 20 週時点では過去 5 年間で最も高い定点当たり報告数であった（図 3）。発生報告が多かった地域は、柏市 2.75（人）、君津 1.63（人）、海匝／安房 1.00（人）保健所管内であった（図 4）。



手足口病は、手、足及び口腔粘膜などに現れる水疱性の発疹を主症状とする急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に例年、主に夏季に流行する。近年、国内の手足口病の病原ウイルスは、コクサッキーウイルス A16、A6、A4、エンテロウイルス 71、コクサッキーウイルス A10、コクサッキーウイルス B、エコーウイルスなどである。不顕性感染例も存在し、基本的には数日のうちに治癒する予後良好の疾患であるが、まれに小脳失調症、髄膜炎、脳炎などの中枢神経系の合併症を起こすことがある<sup>1)</sup>。

感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染である。急性期に最もウイルスが排泄され感染力が強いが、回復後にも 2～4 週間にわたり便からウイルスが検出されることがある。特異的な治療法やワクチンはなく、接触予防策、飛沫予防策による予防が重要である。乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは、日ごろからの手洗いの励行が重要である。特に、排便後・排泄物の処理後は、流水と石けんによる手洗いを徹底する<sup>2,3)</sup>。

■参考・引用

- 1)国立感染症研究所：IDWR 2021 年第 43 号<注目すべき感染症>手足口病・ヘルパンギーナ  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/hfmd-m/hfmd-idwrc/10767-idwrc-2143h.html>
- 2)国立感染症研究所：手足口病とは  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.html>
- 3)厚生労働省：手足口病に関する Q&A  
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>